

# Acanthus

金沢大学広報誌  
[アカンサス]

No.13

大学の知と地域の力を融合する

特集

## 金沢大学の イノベーション創成

金沢大学アジア人財育成  
プロジェクト本格始動!

【特集】金沢大学のイノベーション創成 P.2 / 金沢大学アジア人財育成プロジェクト本格始動! P.10 / 学生インタビュー P.12 / サークル紹介 P.13 /  
【連載】キャンパス・タイムスリップ P.14 / 金沢大学同窓会情報 P.16 / DATA NOTE P.17 / ニュース&トピックス P.18 / イベントカレンダー P.20



**特集** 大学の知と地域の力を融合する

# 金沢大学の イノベーション創成

大学は、現代社会が抱える課題を解決し、次代を形成する技術やアイデアを生み出すことを使命のひとつとしています。今号では、大学の知的資源が社会のニーズと出合うことで始まる「イノベーション創成」の最前線をご紹介します。

イノベーションとはそもそも何なのか。金沢大学では、それを「市場での新たな社会的・経済的価値を生み出し、生活の質向上に役に立つもの」と位置づけています。かつて誕生した蒸気機関が、やがて社会に組み込まれ産業革命へとつながったように、社会を変革する技術やアイデアこそがイノベーションなのです。

しかし、この変革は大学のみで実現されるものではありません。多様化・複雑化する現代社会が抱える課題を解決するため、また、市場での新たな価値を創造するためには、企業や自治体との産学官連携による、トータルパワーの結集が必要となるのです。

そのため、金沢大学では外部組織と積極的に連携を図る「オープン・イノベーション」を推進。大学の「知」と地域の「力」を融合させることで、新たな技術移転や産業の創出に取り組んでいます。

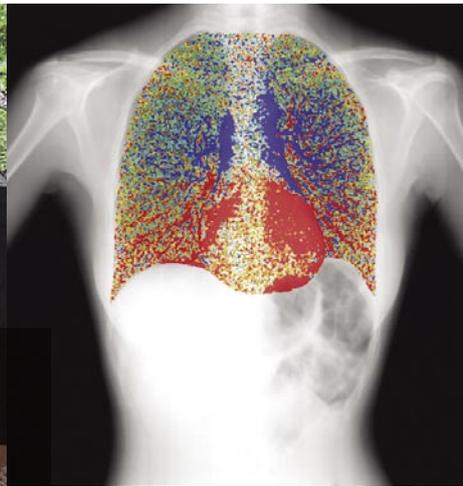
地域との連携による  
「オープン・イノベーション」



P.4-5 知的資源を活用した産学官連携の中枢機関  
イノベーション創成センター徹底解剖！

P.6-7 イノベーション・モデル①  
農工商連携で地域をひとつに  
伝統野菜のブランド戦略

P.8-9 イノベーション・モデル②  
医療の初期診断を革新する  
動くレントゲン



## 事業化・商業化, そして世界の研究拠点へ

オープン・イノベーション実現のために欠かせないのは、学内の知的資源を発掘・管理し、そして社会へ発信する活動です。金沢大学では長年にわたって組織的にこの活動を展開してきましたが、現在は2008年4月に設置された「イノベーション創成センター」がその役割を担っています。

イノベーションは市場での価値を生み出す「事業化・商業化」によつて達成されます。センターでは、特に地域の課題解決における事業化を実現し、全国そして世界へ発信することを目標に掲げています。産学官連携・知的財産活動によるイノベーション創成をとおして、金沢を日本の学都・世界の重要な研究拠点とすることをめざしています。

金沢大学における  
産学官連携・  
知的財産活動の歩み

1995年4月

共同研究センター設置

共同研究・受託研究など、産学官連携の基礎体制を確立

2002年9月

知的財産戦略検討委員会開催

知的財産の取り扱いと文部科学省が公募する知的財産本部設置に応募する体制などについて検討

2002年10月

有限会社「金沢大学ティ・エル・オー(KUTLO)」設立

業務委託により研究成果や発明に対する特許出願・ライセンスを行う機関が誕生

2003年7月

知的財産本部が発足

企業等との共同研究の契約件数や、発明の届出・特許の出願件数が大きく増加

2004年4月

国立大学法人化

知的財産の所有が国から大学に移行

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを設置

研究成果を事業化・商品化し、社会に還元するシステムが強化

2008年4月

イノベーション創成センター設置

共同研究センター、インキュベーション施設、知的財産本部、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを統合

# 将来開拓部門

これまで産学官連携といえば工学系に偏りがちでした。これを自然科学系や人文社会科学系にまで拡大しようと新設されたのが「将来開拓部門」。さまざまな資源を学内外から発掘・育成し、他部門へ橋渡しするのがその役目です。

発掘、具現化、  
そして事業化

金沢大学における産学官連携・知的財産活動の中核機関が「イノベーション創成センター」。従来の共同研究センター、知的財産本部、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー及びインキュベーション施設を再編し、新部門を加えて2008年4月に発足しました。

センターを構成するのは「将来開拓」「連携研究推進」「知的財産」「起業支援」の4部門。そこには本学教員だけでなく、特任教員や客員教員、本学と地元企業・地方自治体との間を取り持つ産学官地

# 知的資源を活用した産学官連携の中核機関 イノベーション創成センター徹底解剖！

# 連携研究推進部門

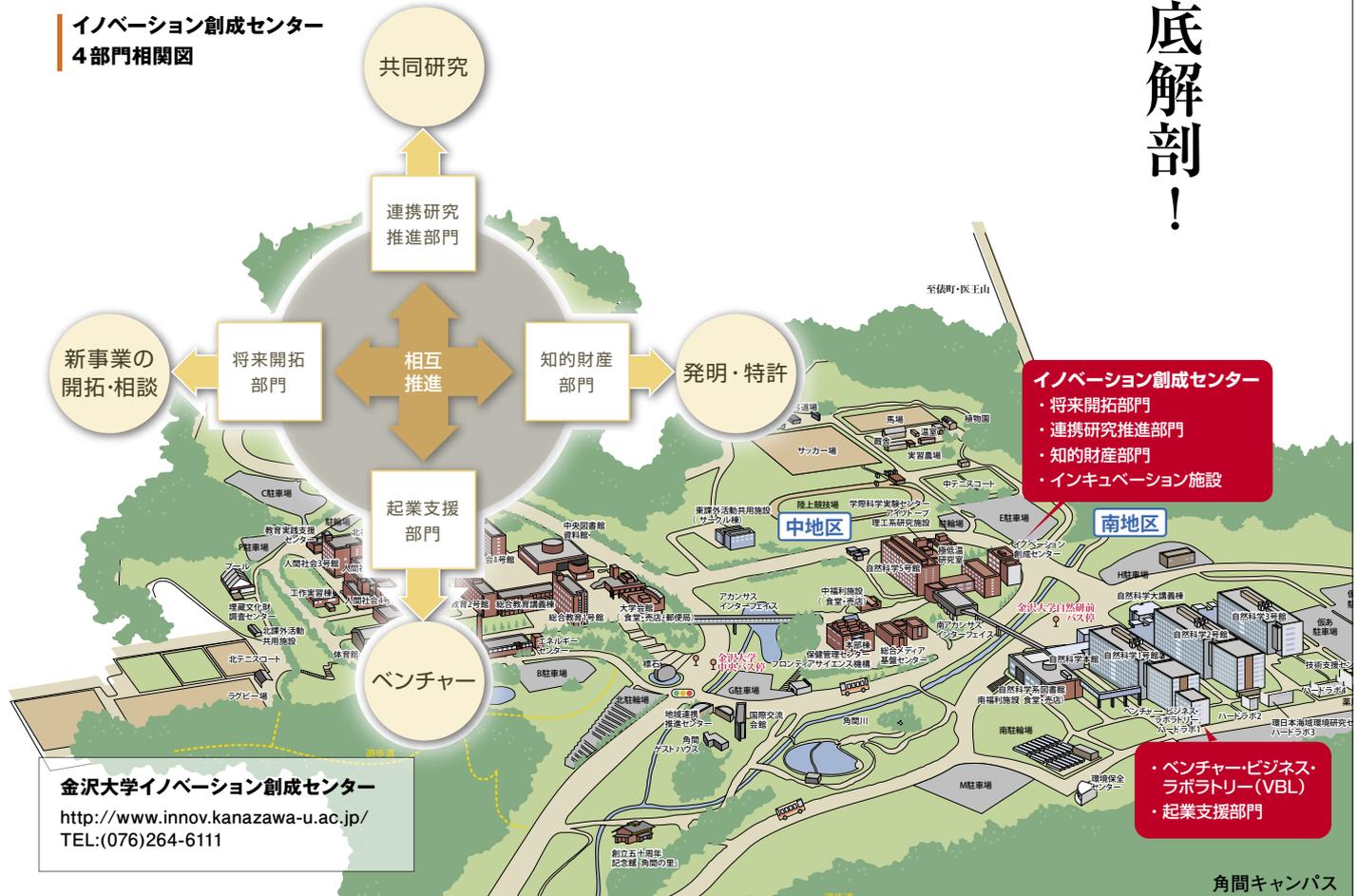
かつての共同研究センターを母体とし、民間企業や公的機関と本学研究者とのコーディネートを行うのが「連携研究推進部門」です。大学のみ、企業のみでは難しい卓越した研究成果を生み出すため、産学官が連携して地域の課題に取り組む体制を整えています。

産学官の力が結集する場

域アドバイザー、豊富な実務経験を持つ産学官連携コーディネーターが籍を置いています。多様なバックグラウンドと豊富な経験を持つ人材が有機的に絡み合い、機能する組織となっています。

また、127団体・企業からなる「センター協力会」も活動を展開。本学の若手研究者と協力会会員との交流の場となる「KICフォーラム」を開催するなど、連携の強化に努めています。

イノベーション創成センター  
4部門相関図



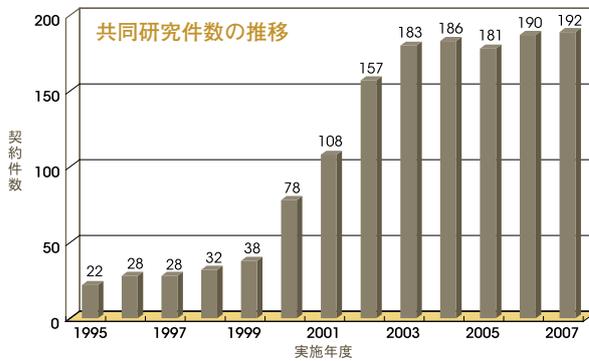
写真右：農商連携によって栽培されたごぼうを持つ部門長の大友信秀教授(右)と、連携パートナーである(株)上野組の石下さん(左)  
写真左：地域イノベーションの創出をめざす「ビジネススクリエイト道場」のキックオフフォーラム



立ち上げ初年度となる今年は、農商連携をテーマとしたパイロット・プロジェクトに着手。農工の「農」は農業分野に限定せず、環境改善、高齢化対策、特産品開発など、幅広い分野を対象としています。行政機関や地域企業はもちろん、他大学とも連携して、発掘した資源の事業化をめざした取り組みを行っています。



写真上：「MEX金沢(機械工業見本市)」にも出展  
写真下：北陸技術交流テクノフェア



ます。また、連携パートナー獲得のため、本学の学術情報や研究成果を積極的に発信しています。技術交流フェアへの参加や、教員による企業・研究所訪問、企業による学内説明会の開催などを行い、双方がコミュニケーションする場を提供しています。

## 知的財産部門

### 大学の「知」を戦略的に活用

大学の研究成果が生み出す発明などの知的財産権は、社会で最大限活用されるためにあるものです。これを実現するため「知的財産部門」では金沢大学TLO(KUTLO)と連携し、学内における知的財産の発掘と技術移転などの活用を行っています。また、知的財産そのものに関する研究や、セミナー・講演会をつうじた教員・学生への教育など、知的財産の戦略的な活用を展開しています。

**KUTLO (キュトロ)とは？**  
大学発の知的財産活用をめざし、技術移転を効果的に進めるために設立された有限会社。大学からの業務委託により、特許出願の手続きやライセンスング、さらにはベンチャー企業設立のための技術的・経営的な助言や援助を行っている。



KUTLOは平成20年度知財功労賞を受賞し、特許庁長官から表彰された

## 起業支援部門

### イノベーション創出を担う

イノベーションの最終局面となる「事業化」を担うのが「起業支援部門」です。教員・大学院生などから、近い将来に起業化が見込まれるプロジェクトや研究テーマを募集し、研究費の補助、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーやインキュベーション施設の利活用によって支援します。さらに、学生の起業家精神を養成するため、ベンチャービジネスに関する講義・演習やビジネスプランコンテストなどを実施。イノベーションの芽を育みます。



学生の起業家精神を育てるアントレプレナーセミナー

**インキュベーション施設とは？**  
2002年に設置された、ベンチャー企業向けの実用化研究施設。現在、大学発ベンチャー4社の活動拠点となっている。



ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL)

**ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーとは？**  
起業家をめざす学生の教育を目的に2004年に設立。さまざまな研究プロジェクトを支援している。

イノベーション・モデル①

農商工連携で地域をひとつに

# 伝統野菜のブランド戦略

能登や加賀にある伝統野菜を、加賀野菜や京野菜のように事業化できないか。今、大友信秀教授（人間社会研究域）が指導する知的財産法ゼミが中心となり、農商工連携を基盤にブランド戦略が進められている。



能登の伝統野菜「細屋ごぼう」

## 地域イノベーションの創出に向けて

イノベーション創成センターは「地域ニーズの発掘から具現化、事業化へのお手伝い」をその個性として発揮することをめざしています。これに先駆的に取り組んでいるのが、大友先生が指導する知的財産法ゼミ。学生が中心となって、石川県の伝統野菜をブランド化する3つのプロジェクトに取り組んでいます。



大友信秀教授プロフィール

幼少期を秋田県で過ごす。東京大学で知的財産法を学ぶ。音楽、スポーツと非常に多趣味。日本語・英語・ドイツ語の童話にも親しむ。

## 学生が挑む農作物のブランド化

伝統野菜をブランド化する一連のプロジェクトは、知的財産法ゼミに「沢野ごぼう」をプロデュースする話を持ちかけられた2006年から始まりました。特許法や商標法、著作権法などを学ぶゼミの学生たちにとって、その提案は、知的財産法の現場に触れるまたとない機会。すぐさま産地である七尾市に向き、ごぼうの収穫を手伝いました。

ブランド化とは「新たな価値を付加するのではなく、それがもともと持っている価値を正確に理解

し、消費者に伝えること」。大友先生からアドバイスを受けた学生は、沢野ごぼうの分析を始めました。実際に食べてみると、口に入れた瞬間に広がる香り、やわらかな食感、そして太さなど、その価値は明白でした。

学生たちは収穫だけでなく、地域のイベントにも参加。地元のプロデューサーと交流を重ね、自分たちがPRしたい価値が生産者たちの思いとズレていないか何度も確認しました。ホームページの作成・運用も行い、大学で学んでいる知識を活かして地域団体商標の取得を手伝っています。

## 広がるブランド化の波

「金大生が野菜のブランド化を手がけている」。沢野ごぼうの話が広がると、2007年、白山市からヘイケカブラの復活と、それを使った地域おこしの話が持ち込まれました。沢野ごぼうのプロジェクトでノウハウを得ていた学生たちは早速、一般的なカブとの比較研究を開始。小ぶりの実をつけること、通常のカブより苦味が強いことなど、次々とその特徴をつかんでいきます。

現在は、その特徴からヘイケカブラが持つ価値を見出すべく、調理法の工夫や、自ら飲食店に売り込みに行くなど、販路開拓の真っ最中。2008年11月には試食会を開催し、「ワインで煮込むと苦味が生きる」「イタリア料理店から引き合いがきた」など、手ごたえを報告しました。



地元の生産者との試食会



ヘイケカブラの収穫を手伝う大友ゼミの学生



白山市のヘイケカブラは地域資源として復活!

KEY PERSON'S VOICE



「細屋ごぼう」の生産者  
株式会社上野組 代表取締役

上野 吉夫さん

地域に力を貸したい、活性化したいという  
思いで農業に参入しました。学生が起業す  
るということで、とても期待していますし、  
地元の先輩企業として応援しています。



イノベーション創成センター

平子 紘平 特任助教

この取り組みでは、地域の特産野菜の生  
産地復活、ブランドの確立から、製品化や  
販路開拓までをカバーし、農業の6次産業  
化※1を地域連携で実現することを目指し  
て取り組んでいます。

※1 第6次産業 第1次産業である農業を、加工(第2  
次)、流通・販売(第3次)まで含んで事業展開すること。



株式会社きんぶる 代表取締役社長  
(学生によるベンチャー企業) 金沢大学法学部3年

山本 佑樹さん

学生が社会と深く関わるころにこの活  
動の面白さがあります。きんぶるの事業や  
営業活動をとおして、地域のため、そして自  
分たち自身のために精一杯努力していき  
ます。



同時に3つのプロジェクトが進む大友ゼミ。ミーティングではさまざまな視点からアイデアが飛び出す

幻のごぼう  
復活プロジェクト

2つの野菜をブランド化する  
経験を経て、学生たちは今、次のス  
テップへ進もうとしています。輪  
島市において、幻のごぼう「細屋ご  
ぼう」の復活プロジェクトが佳境  
を迎えているのです。

このプロジェクトでは、ごぼうの  
生産者だけでなく、食品の加工・  
販売会社も加わり、事業化までが  
その視野に入っています。

学生たちは、授業の一環で終わ  
らせず、責任を持ってこの企画に  
当たるべく、ベンチャー企業、株式  
会社「きんぶる」を立ち上げました。  
ゆくゆくは、地域のブランド戦略  
についてコンサルティングを行  
い、活性化へとつなげる企業をめ  
ざしています。

学生が中心となり  
地域と地域を結ぶ

「自慢のごぼうをたくさんの人  
に食べてほしい。沢野の取り組み  
は、生産者の切なる願いから始ま  
りました。ヘイケカブラは「伝統野  
菜の栽培を絶やしてはいけない」  
という市職員の思いから。そして  
細屋ごぼうの復活は「地域おこし  
の力になりたい」という企業から  
の提案でした。

発案者もニーズも異なる3つの  
「思い」を受け止め、育てる知的財  
産法ゼミの学生たち。「これだけ頑  
張っている学生はなかなかいませ  
ん」と大友先生は胸を張ります。

「沢野ごぼう」の取り組みを参考  
に、他地区でも栽培方法の考察が  
行われました。「ヘイケカブラ」に  
携わる白山市職員と、輪島市細屋  
地区の生産者との情報交流の場が  
設けられました。学生たちの活動



株式会社きんぶるが手がける  
伝統野菜のクッキーとタルト



石川の郷土料理でもある  
「ヘイケカブラ」を使った漬物

が、新しい「地域」と「地域」の交流  
を生み出しています。  
地域の課題解決に大学が関わる  
ことにより、学生や行政、企業など  
多くの人たちが動き始める。それ  
は「イノベーション」の新しい一面  
なのかもしれません。



**動くレントゲンは  
ここがすごい！**

通常のレントゲンから分かることは「形態機能」、つまり姿勢。主に肺や骨の異常を、その形や陰影を基準にして判断します。一方で医薬保健研究域・真田茂教授の研究する「動くレントゲン」では、動きや変化といった「動態機能」を検査できるため、顎や肩、膝などの関節運動が診断しやすくなります。

この技術を利用すれば、CTやMRIでは難しかった呼吸による肺換気の検査の一部も可能になります。また、レントゲンは検査が簡便で患者さんの負担も小さく、被

**産学連携により  
アイデアを具現化**



真田茂教授プロフィール

金沢市出身。金沢大学医学部附属診療放射線技師専門学校卒業。恩師からの影響と好奇心によって研究者への道に進む。趣味はテニス、ゴルフ、スキー。

レントゲンを動かすアイデアが生まれたのはおよそ10年前。しかし、動くレントゲンに使われるエックス線のデジタル画像化はわずかな企業しか持っていない特殊技術であるため、大学だけ

イノベーション・モデル②

## 医療の初期診断を革新する 動くレントゲン

金沢大学で開発が進む動画を使ったレントゲン撮影装置。その陰には学内の知的資源を正しく把握・活用する知的財産本部(現・イノベーション創成センター知的財産部門)の存在がありました。

**特許は知的資源活  
用のため**

「20年前にアメリカのシカゴ大に留学した際、研究成果を特許化する様子を目の当たりにしました」と真田先生。自分たちの研究成果を世の中で役立ててもらうために特許が必要不可欠という考え方は、当時の日本にはまだ馴染みの薄いものでした。

「特許」とは独占のためのツールではありません。研究成果を特許化すること、その成果を公開し、仲間・共同研究者や利用者(を募るといふことです。多くの仲間が集まれば、成果はより速く、広い範囲で世の中の役に立つこと



レントゲンの動画撮影の様子

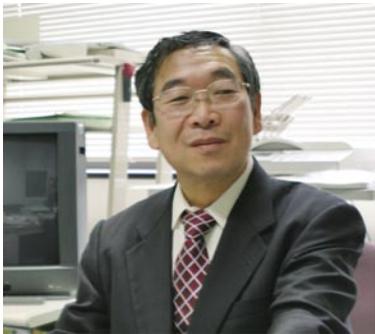
KEY PERSON'S VOICE



産学官地域アドバイザー・丸文通商株式会社  
営業支援グループ担当部長

奥野 信男さん

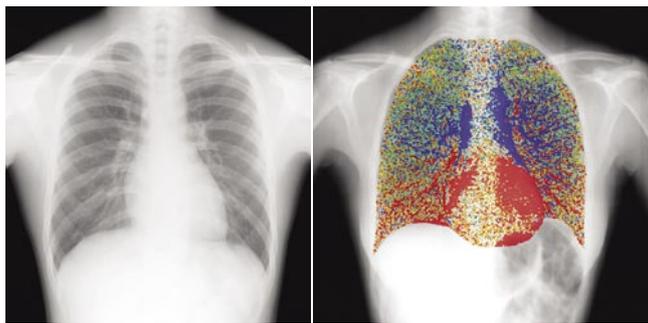
動くレントゲンの早期商品化へ向けて、接触済みの医療機器メーカーなど関係部門との連携強化に努めています。新しい商品の誕生をもたらす“コウノトリ”として研究を支え、計画的・組織的な産学官連携活動の展開と採択率の向上をめざします。



イノベーション創成センター

長江 英夫 産学連携コーディネーター

あらゆる難問に屈することなく、活路を見出し、プロジェクトを前進させる事がコーディネーターの役割です。研究者と企業は考え方が異なることも多いですが、“共に喜ぶ共同研究”をめざして、研究上の問題解決や研究資金獲得を支援していきます。



コンピュータ解析により色づけされた血液の流れ

曝量も少なく済みます。そして何より、静止画が動画になり、取得できる情報量が増えることから、医療の鉄則「早期発見・早期治療」に結びつくとして期待を集めています。

で開発することはできませんでした。「これまでの試作機を使った初期臨床データの収集や、現在行っている臨床機を用いたデータの蓄積を可能としたのは、当時の共同研究センターや知的財産本部の後押しによる産学連携活動です」と真田先生は語ります。

動くレントゲン最初の試作機が製作されたのは2001年。当時の共同研究センターや、後に誕生する知的財産本部、KUTLOからの支援を受け、企業と円滑な共同研究を行った結果でした。その後も産学連携により改良を重ね、2006年度の独立行政法人科学技術振興機構のシーズ発掘試験<sup>1</sup>において採択を獲得。2008年度には全国でわずか55件しかないB発展型の採択を受けました。

<sup>1</sup>シーズ発掘試験  
研究者とコーディネーターの連携強化を図るための支援制度。知的財産権の取得が期待される、または知的財産権を取得し実用化への発展が期待される研究活動への助成を行うもので、それぞれ「A発掘型」「B発展型」と呼ぶ。

になります。

金沢大学に知的財産本部が整備され、知的資源を有効活用する体制が整ったとき、「日本にもこうした考え方が現れたのだ」と先生は驚いたそうです。

**産学連携が拡げる可能性**

ある日、真田研究室の田中利恵助教は、動くレントゲンに思わぬ副産物を発見しました。

「動くレントゲンは息を止めずに撮影するため、呼吸にあわせて肺に白黒の濃淡が出ます。これを見ることで、肺気腫などの病気が発見できるのですが、この濃淡をコンピュータで解析すると、かすかなノイズがありました」。

なんと、それは血流。動くレントゲンは血液の流れも映し出したのです。造影剤などの医薬品を投与することなく血流を診察することができれば、患者さんの負担はま



田中利恵助教プロフィール

富山市出身。金沢大学医学部保健学科に入学以来、金沢に住み続ける。動くレントゲンは卒業研究のテーマ。趣味は筋トレと1人ランチビュッフェ（食べ放題）。

た一つ少なくなりません。

大学にはない技術と企業にはない理論。それらが出会う産学連携によって生まれた動くレントゲンは、さらなるイノベーションの可能性をも示しているのです。

# 金沢大学アジア人財育成プロジェクト本格始動！

**前編** 留学生を「人財」へと育てるプロジェクトの実像とは

近年、成長の著しいアジア諸国から、日本に興味を持ち、日本語や日本文化を学びに来日する留学生が増えています。また、アジアを重要な市場と考え、進出を果たしたいと考える日本企業も数多くあります。こうした背景のもと、金沢大学では「アジア人財育成プロジェクト」を本格始動させました。

## 地元産業界と連携した「人財育成」

2007年、アジアの相互理解と経済連携の促進に向けて、経済産業省と文部科学省は「アジア人財資金構想」をスタートさせました。本学の「アジア人財育成プロジェクト」はその一翼を担うものです。

このプロジェクトは、北陸の産業界と本学大学院自然科学研究科がタッグを組んで行う留学生支援事業。就職までを視野に入れ、アジアからの留学生を「ビジネス」にも精通したエンジニアに育成します。修了者は将来、日本企業またはアジア諸国で事業展開する日系企業に就職し、両者の架け橋となつて活躍することが期待されます。

その「人財育成」に向けて、本学は大学院自然科学研究科の博士前期課程に「高度専門（技術・ビジネス）留学生特別コース」を設置。石川県産業創出支援機構や石川県国際交流協会とも連携し、ものづくりのための専門教育、日本語・ビジネス教育、そして企業での実践教育（インターンシップ等）を行っています。

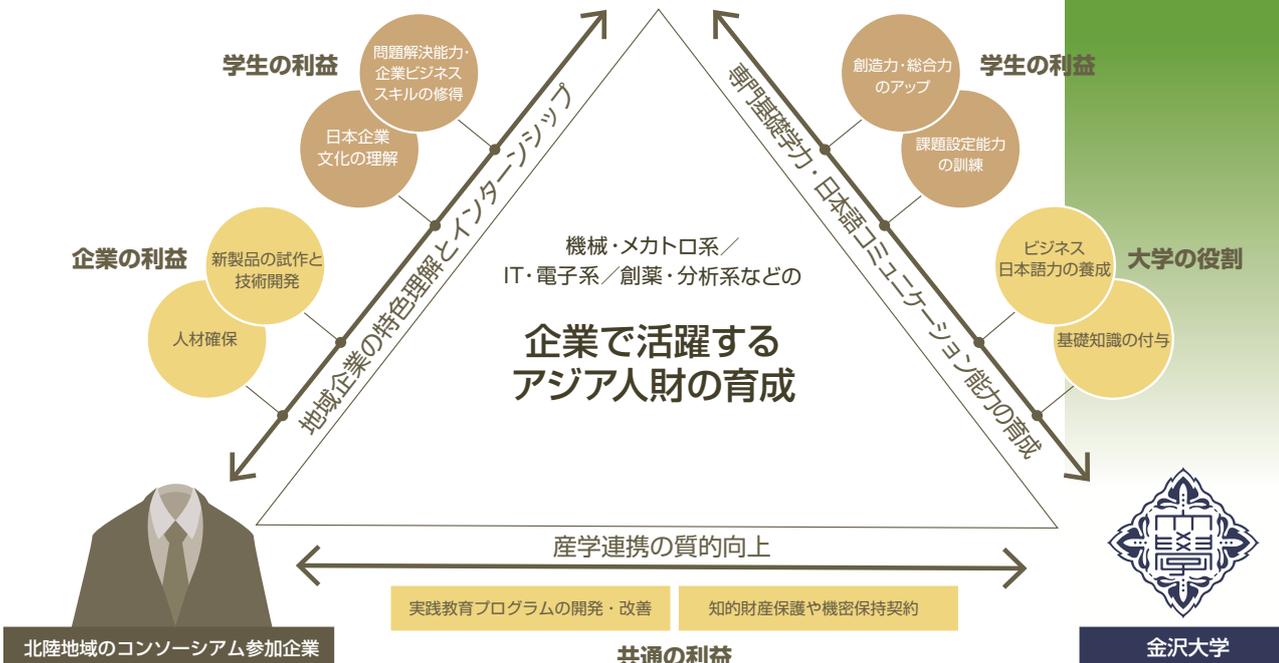
### 高度専門（技術・ビジネス）留学生特別コースカリキュラム

金沢大学における教育		産学連携による教育	
専門教育	日本語・日本ビジネス教育	企業実践教育	
<b>専門個別科目</b> （10単位以上選択必修） <b>■機械・メカトロ系</b> 機能機械科学専攻 人間・機械科学専攻 <b>■IT・電子系</b> 電子情報工学専攻 <b>■創薬・分析系</b> 生命薬学専攻 <b>■物質工学系</b> 物質工学専攻 <b>■社会基盤系</b> 社会基盤工学専攻 <b>■地球環境系</b> 地球環境学専攻 課題研究（8単位必修） ・修士論文の作成	<b>（必修を含む18単位以上選択必修）</b> <b>■総合日本語</b> 2科目4単位必修 <b>■ビジネス日本語</b> 2科目4単位必修 <b>■日本文化（いしかわ金沢学）</b> 1科目2単位必修	<b>（6単位必修）</b> <b>■地域企業概論</b> 1科目2単位必修 ・企業の特徴と優位性のある技術の理解 <b>■地域企業研究</b> 1科目2単位必修 ・インターンシップ事前教育 <b>■企業技術研修</b> 1科目2単位必修 ・インターンシップ（技術系）	<b>（6単位必修）</b> <b>■ビジネス基礎論</b> 1科目2単位必修 <b>■MOT（技術経営）教育</b> 2科目4単位必修 ・技術マネジメント基礎論 ・ニュービジネス創造論 ・地域ビジネス論 <b>■企業ビジネス研修</b> 1科目2単位必修 ・インターンシップ（ビジネス系）

専門教育は金沢大学が実施。ビジネス日本語は石川県国際交流協会、企業実践教育は石川県産業創出支援機構と地元企業が支援を行う

### アジア人財育成プロジェクト 全体イメージ図

アジア諸国からの優秀な留学生



## 留学生の受入選抜のイメージ図



本コースに入学する留学生は、本学の協定校を中心としたアジア諸国の有名大学の学生たち。各大学より推薦を受けた優秀な学生のみが出願できます。彼らはまず、北京や上海、バンコク、ホーチミンなど現地で筆記試験を受けます。その後、角間キャンパスと現地とをインターネットで結び、TV会議システムを用いて口述試験や面接を実施します。



2008年度の入校式。  
厳しい審査を経て優秀な留学生が集まった

# 優秀な留学生を厳選する入学試験

## 三本柱は日本語・専門知識・インターンシップ

日本と母国の架け橋となる留学生。まずは日本語を話すことができればその役は務まりません。このプロジェクトでは、一般的な日本語能力に加え、ビジネス文書作成などの場面でも応用できるハイレベルな日本語の能力を身につけることとなります。

また、企業の戦力として活躍するために、本学自然科学研究科で理工系系の専門分野を学び、ものづくりの高度な知識を修得します。

そして、このプロジェクトの最大の特徴が充実したインターンシップです。本学ではその受け入れに積極的な地元企業と「金沢大学アジア人財育成コンソーシアム」を結成し、技術系とビジネス系、2種類のインターンシップを実施。特に、技術系では約3ヶ月間企業に赴き、製品開発課題に取り組みます。長期間にわたって現場での経験を積むことで、課題解決能力やチームワークなど、多くのスキルを修得します。



真剣な表情でビジネス日本語の授業に臨む留学生たち

## 歴史と伝統のまち金沢で日本の文化を学ぶ

日本語ができ、ビジネスの知識や技術があっても、日本の文化を知らなければ、そこから生まれる日本人特有の感覚の理解に戸惑うかもしれません。そこでこのプロジェクトには、加賀百万石の伝統文化を体験する「いしかわ金沢学」が組み込まれています。

歴史と伝統のある学都・金沢で学ぶことは、留学生にとって大きなメリット。そのチャンスを活かし、少しでも日本の文化にふれ、日本との距離を縮めてもらうための配慮がなされているのです。

2008年11月現在、このプロジェクトが受け入れている留学生は24名。そのうち2名が既に就職内定を獲得しています。来年4月、本プロジェクトを修了した優秀な「人財」が、アジアと日本の架け橋としての活躍を始めます。



兼六園のお茶会で日本文化を体験

## 参加留学生に聞く！

### 本プロジェクトの魅力は？



周 棟 さん

出身: 陝西省漢中市 (中国)  
専門: 電子情報工学 適応システム

このプロジェクトは石川の文化などいろいろな勉強ができるうえ、就職サポートまでしてくれるのでありがたいですね。毎日忙しいですが、日本企業独特のやり方も学べ、自分にとって新しい挑戦になっています。



呂 劫 さん

出身: 遼寧省大連市 (中国)  
専門: 電子情報工学 集積回路工学

企業でのインターンシップを体験できるというのが珍しく、とても面白いです。会社の上司や同僚との交流は新鮮に思えますし、プロジェクトではいつも新しい目標が次々と立てられるのでやる気が出ます。いい成果が出るとうれいですね。

# Student Interview

## 学生インタビュー

金沢大学大学院教育学研究科2年

# 清水聡一

SHIMIZU Soichi

誰もがなじみのあるラジオ体操を研究テーマに、地域の子どもたちと交流する清水さん。

速いテンポ、パンチやキック、パラパラなどの楽しい動きを取り入れた、

“心を捉える”体操づくりへの想いを伺った。



元気いっぱい、笑顔で体操に励む子どもたち



### 体操は運動の基本

清水さんが体操を意識し始めたのは高校生の時。陸上部に所属し、短・中距離走や高飛びなど、さまざまな種目に打ち込んでいく中で、漠然と「スポーツにおける基本的な体の使い方、身ごなしのいくつかは、体操で養われるのではないか」と感じたのだという。実際、高飛びの練習に側転など器械体操の動きを取り入れたところ、空中での姿勢制御に効果が表れた。

教師をめざし、大学院で保健体育を専攻する清水さん。自身の経験から、体操によって、「日常生活にはない動作」を行うことで、運動が苦手な子どもも「スポーツの基本的な身ごなしができるようになるかもしれない」「これまでよりも運動を好きになってくれるかもしれない」と思うようになった。

### 工夫を凝らした アレンジ体操を考案

清水さんの研究分野はバイオメカニクス。体の動きを科学的に分析する学問だ。テーマはラジオ体操をベースに、目的に応じた体操をつくり、効果を検証、その可能性を広げること。ラジオ体操を選んだのは、「誰でも知っている」「誰でもできる」体操で、曲を聴けば自然と体が動く人も多いからだ。

パンチやキックの動作や、「やーっ」という掛け声を組み込んで、子どもたちの気持ちを盛り上げる体操。英語版のラジオ体操を流し、体を動かしながら英語の発音を行い、英語に

対する苦手意識、発声に対する羞恥心をなくす体操など、バリエーションも多彩だ。

アレンジの際、清水さんが心がけていることがある。それは「音楽は変えないこと。なるべく実際のラジオ体操に重なる形でアレンジを試みること」だ。子どもたちに違和感なく取り組んでもらうための工夫だと清水さんは語る。

### 被災地の子どもたちを 体操で励ます

そんな清水さんの活動が、今、新しい交流を生んでいる。2008年7月28日、金沢市を襲った豪雨で浅野川がはららん。被災した湯涌の子どもたちを、清水さんは体操をとおして元気づけているのだ。

もともと「湯涌のお米で作ったおにぎりをみんなでご飯べよう」という、食育と絡めたおにぎりラジオ体操を地元の方々で考案。実施しようとした矢先の水害だった。その縁で、体操の指導をしていた湯涌小学校で、サイドステップや、パンチやキック、掛け声を取り入れたアップテンポのラジオ体操を指導した。



夏の巡回ラジオ体操をサポート

「子どもたちは難しい動きにも熱心に取り組んでくれました。この体操をとおして、湯涌の元気を発信していきたいですね」と清水さんは笑う。復旧ボランティアにも従事した清水さん。地域の温かさを再発見し、逆に元気をもらったそうだ。

### 誰もが楽しめる 体操をめざして

お年寄りから子どもまで、あらゆる人が、自分に合った動きを取り入れ、楽しむことができ体操。清水さんは今後、体操がもっと広まっていこう、TPOに応じたアレンジ体操も考案していきたいという。

「例えば、職場の朝、眠気を覚まし1日の効率を高めるために行う脳トレ体操なんか、面白そうじゃないですか？」

体を動かせば、気持ちが出るくなり、健康の増進にもつながる。清水さんの体操が、地域に笑顔と健康を広げていく。

### 清水聡一 プロフィール

1977年生まれ。石川県出身。金沢大学教育学部を卒業し、民間企業の人事担当に。そこで、人に伝えることを再認識し、教職に就くことをめざす。2006年、大学院教育学研究科に進学。



# サークル紹介

## チーム一丸となってゴールへ駆ける！ サッカー部

現在、金沢大学には、文化系サークルが39、体育系サークルが41あり、2,500名以上の学生が所属しています。

[http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad\\_gakusei/student/club/](http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/)

「娯楽として楽しむのもいいですが、真剣に向き合い取り組むことで得られるものがたくさんあります」。そう話すのはサッカー部副主将の金岡 興さん(教育学部4年)。異なる個性をもつ一人ひとりがチームとして心を合わせ、同じ目標、すなわちゴールをめざす。サッカーを通じて多くの人々に出会い、影響しあう。それらの経験を重ねることで、自身が成長してきたことを実感しているのだ。

金大サッカー部では、選手自身が練習のプログラムを組んでいる。「部員それぞれが、チーム全体、メンバーにとって最善の方法を考えて練習を重ねることで上達してきました」と話す金岡さん。OBからも、「サッカー部での自ら進んで行動する経験は、社会に出てからも役に立つ」と聞かされるそうだ。

もっと上手く、もっと強くなりたい。その想いを胸に、チームは北信越大会での優

勝、そして全国大会への出場をめざす。道のは決して楽ではないが、サッカーに魅せられた部員達は、自身とチームのさらなる成長を見据えて、今日も広いフィールドを駆けている。

### サッカー部の活動はここで！

● 練習・試合のスケジュールをサイトにアップしています！

<http://kanazawasoccer.genin.jp/>



北陸大学との練習試合



## 強豪チームを石川に招いての大会を実現！ ユニオンドリームチャレンジカップ2008

2008年の夏に開催された「ユニオンドリームチャレンジカップ」は、全国16大学によるトーナメント大会。石川県内から出場した4大学のサッカー部が連携して運営にあたったが、なかでも全体の統括役を担うなど主体的な役割を果たしたのが金沢大学サッカー部だった。

学生実行委員長を務めたのは前述の金岡さん。開催のきっかけを、「2年前、金大が全国大会に出場した時の経験でした」と振り返る。北信越大会を突破して出場を勝ち取った金大だったが、全国大会の試合では完敗。強豪相手にまるで歯が立たなかった。「地元で勝っても全国では通用しない。石川の大学サッカー界全体の底上げが必要だと痛感しました」。

そこで、金岡さんを中心とした実行委員会が考えたのが、全国の強豪大学と競い合う大会の実施。高いレベルでの試合を重ねることによる底上げを狙ったのだ。同じ想いを抱く県内の大学に協力を募り、開催に向けて動き出した。なにもかもが手探りのうえ、大学間で連携しての活動は初

めてのこと。協賛金集めなどの準備は苦労の連続だったが、活動が続けるうちに徐々に支援者が増えていった。

努力の甲斐あって、地元クラブチームのツェーゲン金沢、J1チームのヴィッセル神戸の参加が実現。大学サッカーを知らない人にも興味を持ってもらうため、目玉となるプロチームを招こうと粘り強く交渉を続けた結果だった。

大会では、そのプロチームを破って大阪体育大学が優勝した。大会の実現だけでなく、大学サッカーの実力をも広くアピールすることに成功したのだ。金岡さんは、来年も開催予定の大会をより盛り上げて欲しいと、後輩へ夢をつなぐ。



大会成功を誓い合った県内4大学



8月18日～21日の4日間、県内4会場を舞台に激闘が繰り広げられた



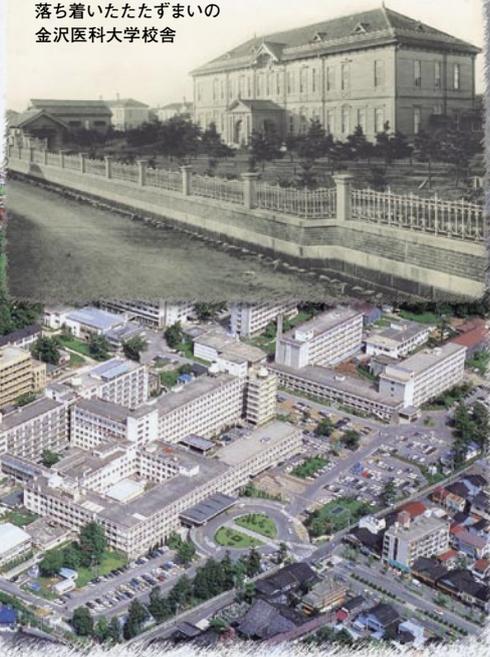
強豪チームとの試合は貴重な経験

# キャンパス・タイムスリップ。

## ② 宝町・鶴間キャンパス編

金沢大学のメインキャンパスがある角間町から、浅野川を挟んで位置する「宝町・鶴間キャンパス」。今回の「キャンパス・タイムスリップ」は、大学設置以前から“医学の舞台”となってきたこのキャンパスの歴史を振り返ります。

落ち着いたたずまいの  
金沢医科大学校舎



1965～1968年にわたって校舎の改築が行われた

### 医学学校から 医・薬学部へ

古い町並みにたくさんさんの寺院が点在する宝町。その地に医学学校が置かれたのは1912年のこと。県立金沢病院（現・金沢大学附属病院）の隣に、当時広坂にあった金沢医学専門学校が移転してきました。その後、金沢医科大学への組織変更をはさみ、1929年には同じく広坂にあった薬学専門部が移転。1949年に金沢大学が設置された際、それぞれが医学部・薬学部となりました。宝町キャンパスの誕生です。

### 宝町キャンパスの 発展

第二次大戦後、各地方で実施された国立大学の設置が一段落すると、1955年から各大学に博士課程が置かれるようになりました。金沢大学においても、同年に大学院医学研究科が、1964年には薬学研究科が発足。校舎の改築や、金沢市米泉にあった「がん研究所」の移転入も相次いで行われ、宝町キャンパスは施設体制両面で総合大学に相応しい発展を遂げました。

### あの頃コラム 01

#### 昭和天皇・皇后の来校

1958年、昭和天皇・皇后が地方巡幸の途中で金沢大学医学部を訪問されました。ご自身も生物学の研究者であった昭和天皇は、予定時間をオーバーしながらも医学部の研究・標本に関する講義を受講。また、宿泊先の旅館で行われた医学部教授による講義でも熱心に質問をされるなど、研究者としての情熱を感じさせるエピソードを残しています。



顕微鏡をのぞかれる昭和天皇

薬学部のダンスパーティー。各学部やサークルが主催となり、他校の生徒を招いて頻繁に行われた  
(1958年卒業アルバム)

学業の思い出として浮かぶのは格式に満ちた授業の雰囲気。教授に補佐役が数人付き従って、黒板消しやスライド操作を担当するのです。先生も厳格な方が多く、気軽に声を掛けられませんでした。

5～6年生の頃にインターン闘争が激化し、私も授業をボイコットして香林坊や広坂をデモ行進しました。新研修制度への反対運動を巡っては友人たち数十人と夜通し議論。その時に皆で食べた出前のラーメンの味は忘れられません。

1年生から所属した能楽部で免状を得たこと、照れ臭さを隠してダンスパーティーに参加したこと。どれも懐かしい思い出です。



宝町・鶴間キャンパスの

### 思い出

金沢大学理事(病院担当)  
副学長

古川 仞さん  
みつる

富山県出身  
医学部医学科卒  
在籍期間：1963～1969

薬学部の実験風景。髪型や眼鏡が時代を物語る  
(1965年卒業アルバム)

宝町・鶴間キャンパスの

## 思い出

市内病院勤務  
検査技師

林 絵里奈さん

金沢市出身  
医学部保健学科卒  
在籍期間：2002～2006



鶴間キャンパスは小ぢんまりと  
しています  
が中は複雑  
入学当初は  
迷子になり

がちでした。どこにいても周りに人がいるため、明るく楽しい雰囲気でした。保健学科は生徒の7割ほどが女性で、特に昼時の食堂は「かしましい」という表現がぴったりでした。

印象に残っている授業はDNAの講義。先生が熱心に、そして楽しそうに授業をされていたので、内容が難しくても楽しく学べました。また、細菌検査の授業は分かりやすいと評判でした。その授業の実習で、細菌の種類を特定する「同定」などを行った経験は、今の仕事に随分と活かされています。

## あの頃コラム 02

### インターン闘争

1946年に始まった臨床実地研修制度。インターン制度として知られ、医師免許取得前に1年間の実地研修を義務づけるものでした。期間中は学生でも医師でもなく、給与の保障もほとんどなかったため、学生による反対運動が全国的に勃発。金沢大学医学生もデモ行進や授業・試験のボイコットに参加しました。1968年に制度は廃止されましたが、問題はその後長く尾を引きました。



市内中心部をデモ行進する医学生

## 医療技術短期大学の誕生と鶴間キャンパスの

医療の進歩による医学教育制度の見直しが全国的に広まるなか、金沢大学医学部においても3年制の短期大学設置を望む声が上がっていました。それを受けて1972年、大阪大、九州大に次いで国立では全国で3番目となる医療技術短期大学部を設置。看護・診療放射線・衛生技術の3学科が誕生しました。

開校当初は医学部校舎の一部を利用していましたが、1975年から医学部近くに新校舎の建築を開始。翌年完成したのが鶴間キャンパスです。住所は小立野ですが、旧町名にちなんで「鶴間」と名づけられました。

この医療技術短期大学部は、

1979年に5学科制となり、さらに1995年、4年制の医学部保健学科へと生まれ変わりました。

## 薬学部への移転と学域・学類移行

2004年、金沢大学総合移転計画の第II期事業が開始され、宝町キャンパスで75年にわたる歴史を刻んだ薬学部が角間キャンパスへと移転しました。

宝町に残った医学部医学科と鶴間の同保健学科は、2008年4月の「学域・学類制」への移行を迎え、それぞれ医薬保健学域の「医学類」「保健学類」となりました。制度は変われども、宝町・鶴間キャンパスは現在も医学を志す学生たちの学びの場となっています。

## あの頃コラム 03

### 金沢大学附属病院

金沢大学の歴史をさかのぼると、行き着く先は加賀藩が1862年に開いた種痘所です。学校を主とし病院を従とする体制は、1870年、加賀藩が医学館と附属病院を設置したことで確立しました。同病院はその後、廃藩置県に伴い石川県金沢病院と改称。1905年に現在地に移転、1922年に石川県から文部省へ移管され、金沢大学設立時に医学部附属病院となりました。現在は金沢大学附属病院として地域医療の発展に貢献しています。



現在、改築が行われている外来病棟の完成予想模型

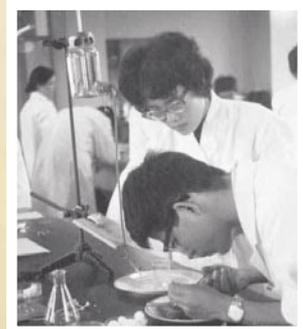


## フォトアルバム

Photo album



近年復活した「医学展」。かつては4年ごとに行われていた(1958年卒業アルバム)



卒業学部を超え、日本各地で交流が進む

# 金沢大学同窓会情報

Alumni association information

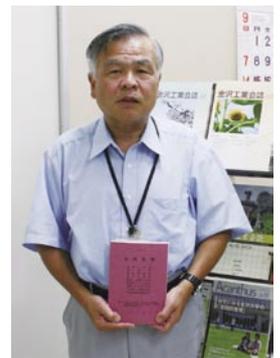
一生の友に巡り会い、生涯をかけてやりたいことを見つける、人生において大きな意味を持つキャンパスライフ。金沢大学ではその「大切な時間」にいつでも立ち返ることができる多くの同窓会が活動しています。

## つながりを保ち続け 巨大なネットワークを形成 金沢工業会

工学部の同窓会である金沢工業会。年々広がり続けるそのネットワークは、工学部の卒業生のみならず、さまざまな人を支える力となっています。

工学部の卒業生には「機械を学んだ人は機械系の職に就く」など、大学での専攻をそのまま仕事に活かす人が多いという特徴があります。そのため、この同窓会は「懐かしい仲間との出会い」をサポートすると同時に、同業者同士の情報交換や人脈開拓の場となっています。

全国に12ある支部は、総会の開催をはじめとして活発に活動を展開。また、金沢大学同窓会連絡協議会のリーダー的な立場にもあり、他学部と合同の同窓会を開くなど、金沢大学OB全体の交流を広げる役割を担っています。



会員名簿を手にする山田理事長

会員数は2万人超。旧制金沢高等工業学校や金沢工業専門学校など、前身校からのつながりも維持しています。

「年3回、会誌の送付をとおり、高い頻度で名簿を更新しています」と語るのは、理事長を務める山田実さん（1971年卒・金沢大学理工学域教授）。4月に発行される会誌は、会員全員に送られ、年1回必ず「消息確認」と「母校や同窓生の近況伝達」が成されます。同窓生の消息を、同窓会活動の基盤と捉え、つながりを保つ努力が続けているのです。

その巨大な同窓生ネットワークは、在学生にとっても力強いサポートとなっています。工学部の卒業生や大学院修士生の就職率は100%。全国の企業に本学工学部の卒業生が何人いるのかを把握している工業会が、在学生の就職活動をバックアップしているためです。

「工業会では同級生のような横のつながりはもちろん、先輩後輩の縦のつながりも大切にしています」と山田理事長。この大きなネットワークはこれからは広がって、大学や同窓生、そして在学生を支え続けていきます。



写真上:アカデミックプロムナード(自然科学本館)  
写真下:同窓会東京支部合同講演会・懇親会

Activity report

## 活動報告 2008 08 ~ 11

8/9 理学部数学科同窓会「第17回定時総会および懇親会」開催

3年ごとに開かれる定時総会に、52名が出席し、親睦を深めた。

9/27 金沢大学「同窓会東京支部合同講演会・懇親会」開催

【演題】  
江戸湾から運河ルネッサンスまで  
―東京港の生い立ちと水辺の再生について―

【講師】  
金沢工業会東京支部  
田中亨 支部長

11/1 10/3 第6・7回「北の都会」月例会

11/1 10/3 第2回 金沢大学ホームカミングデー



11/4 「北の都会」講演会

同窓生が待っています！  
どうぞ、ご参加ください！

○活動スケジュール

2/28 2/21 近畿支部臨時総会

2/28 2/21 東海支部総会

同窓会の人的ネットワークを活用し、有意義な人生を

### [ 金沢大学同窓会 ]

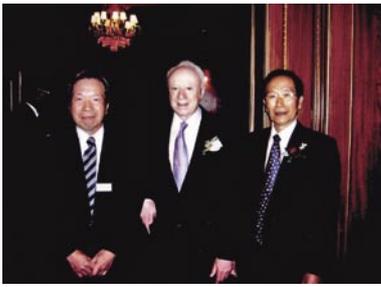
- 法・経・文同窓会 TEL(076)264-1667 (同窓会事務局)
- 教育学部同窓会 TEL(076)264-6196 (同窓会連絡協議会事務局気付)
- 理学部同窓会連絡会 TEL(076)221-2061 (金沢子ども科学財団気付)
- 医学部十全同窓会 TEL(076)265-2132
- 医学部保健学科 つるま同窓会 TEL(076)265-2504
- 薬学同窓会 TEL(076)234-4411
- 金沢工業会 TEL(076)264-0482
- 四高同窓会 TEL(076)262-5464 (石川四高記念文化交流館内)

### [ 金沢大学同窓会連絡協議会 ]

総合大学として、長い歴史と伝統を誇る金沢大学は、多方面で活躍する数多くの卒業生を輩出しています。そのため、同窓会での出会いや再会は、質の高い人的ネットワークを構築するまたとない機会となっています。金沢大学同窓会連絡協議会では、卒業生の連携強化を目標として、同窓会への加入促進や各同窓会報の発行支援、行事の協力などの活動を行っています。

【事務局】金沢大学総務部 TEL:076-264-6196 FAX:076-234-4014  
〒920-1192 石川県金沢市角間町 E-mail:now@kanazawa-u.ac.jp

● 卒業生向けホームページ  
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/internal/graduate/index.html>



遠藤章客員教授(右)と馬淵宏特任教授(左)。中央は1985年にノーベル生理学・医学賞を受賞したゴールドSTEIN教授

**9月**  
**受賞**  
 大学院医学系研究科・遠藤章客員教授がラスカー賞を受賞  
 「ラスカー賞」は米国で最も権威のある医学賞で、ノーベル賞の登竜門とも言われています。血中のコレステロール値を下げる薬「スタチン」を発見・開発した業績が評価されました。

**10月**  
**交流協定**  
 大学院医学系研究科が韓国ウルサン大学医学部と部局間交流協定を締結  
**11月**  
 大学院人間社会環境研究科が国立台湾大学と部局間交流協定を締結

**交流協定**



右より長野勇研究・国際担当理事, 中村信一学長, 八重澤美知子ラボラトリー長, 高尾展明事務局長

**8月**  
**研究・教育業績**  
 文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択  
 本学を代表校として、大学コンソーシアム石川の取り組みを進展させる「大学コンソーシアム石川を中心とした共通の教養教育機関とICT教育支援体制の構築」が採択されました。この事業は、国公立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的としています。

**研究・教育業績**

**11月**  
**課外活動**  
 平成20年度新司法試験に4名合格  
**課外活動**  
 金沢大学合唱団が第61回全日本合唱コンクールで金賞を受賞  
 同時に、岡山市教育委員会教育長賞、カワイ奨励賞も受賞しました。

**司法試験**

平成20年度国家公務員Ⅱ種(行政)に122名が合格し、合格者数で3年連続国公立大学1位になりました。

**公務員試験**

**11月**  
 医薬保健研究域・澤田さつき技術専門職員が、「平成20年度医学教育等関係業務功労者表彰」を受賞



野村眞理教授

**10月**  
 人間社会学域・野村眞理教授が日本学術会議会員(第一部 人文社会科学)に任命

**9月**  
 特許実施料収入全国8位  
 平成19年度は62件の発明届出があり、35件の特許出願し、また過去に出願した特許のうち9件を企業に技術移転しました。

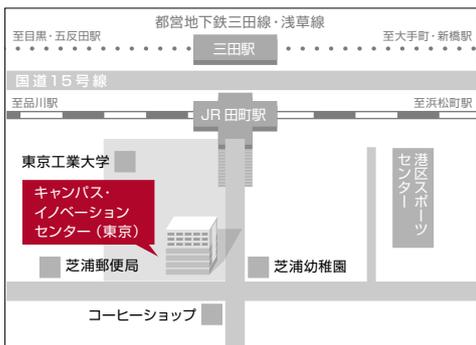


「第1回～見て知って金沢大学～サンデーセミナー」の様子

金沢大学は2004年に東京事務所を設置し、さまざまな情報の発信・収集をとおして大学と首都圏をつなぐ拠点としています。  
 東京事務所は、東京都港区のキャンパス・イノベーションセンター(CIC)東京内にあり、打ち合せや会議、イベントなどに活用されています。  
 また、今年度から、学生や一般の方に金沢大学をより知ってもらうため「見て知って金沢大学 サンデーセミナー」を開催し、金沢の街や金沢大学の魅力を伝えています。



**東京事務所**  
 金沢と首都圏をつなぐ拠点  
**金沢大学東京事務所**



■金沢大学東京事務所  
 東京都港区芝浦3-13-16  
 キャンパス・イノベーションセンター東京  
 505号室  
 TEL: FAX: 03-5440-9069  
 (月) 金曜日 10時30分~17時15分

〈東京事務所の取り組み〉  
 ● 入学試験広報・大学説明会の実施  
 ● 就職活動・企業訪問の支援  
 ● 産学官連携・企業との連携促進  
 ● シンポジウム・学会・研究会などの開催  
 〈今後の予定〉  
 12月21日(日) 14時30分~16時  
 第4回「見て知って金沢大学」サンデーセミナー  
 「イタリヤのフレスコ壁画修復」  
 講演: 宮下孝晴教授(人間社会学域)

# TOPICS 金大のいまがわかる

[ ニュース&トピックス ]

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/)でご覧いただけます。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

## August 8月

8/1 名古屋で金沢大学生による  
トークセッションを開催

約50名の高校生、受験生、保護者などが  
参加しました。



8/7~8 オープンキャンパス  
を開催

カリキュラムの説明会や模擬  
講義、研究室の見学、在学生による  
トークセッションが行われ、高校生  
や保護者など延べ7700名が来  
場しました。



8/11~12 理身体験セミナーを開催

高校の授業では体験できないテーマで  
の、数学・物理・化学・生物および地学の  
セミナーに、県内8高校の1~3年生約  
100名が参加しました。

8/22 「いしかわ金沢学」子ども体験  
塾を開催

金沢市を中心に小学生43名が参加し、金  
箔や輪島塗、能楽など、地域に息づく匠の  
技を体験しました。

8/29 「学習者中心の大学づくり」を  
テーマに事務職員SD研修会  
を開催



8/29 浅野川水害調査速報会を開催

7月に発生した浅野川はんらんに伴う水  
害について、本学では被災直後から学術的  
な立場で調査研究を進めてきました。会  
では被害状況の速報と調査研究計画が報告さ  
れ、今後の課題などについて議論しました。



## September 9月

9/12 JICA北陸 金沢大学「サブ・  
サハラ・アフリカ地域における  
学校運営改善」コースが閉講

アフリカ6カ国の教育関係者11名が本  
学を拠点として小学校を参観し、交流を深  
めました。

9/13~16 「能登エコ・スタジアム  
2008」を実施

生物多様性などの環境問題を理解する  
とともに、海や山を活用した地域振興策を  
探りました。

9/13 フォーミュラ研究会が第6回  
全日本学生フォーミュラ大会  
で総合第3位



9/17 病児保育室「たんぽぽルーム」  
を設置

病気やケガのため子どもが登校・登園でき  
ない場合に、保護者が仕事を休むことなく、  
子どもを保育できる環境を整備しました。



9/25 理事によるキャリアガイダンス  
を開催

本学の卒業生であり、民間企業顧問でも  
ある田中隆治理事。企業をよく知るOBの  
立場から、そして本学理事として、就職と  
向き合う学生たちへ熱いメッセージを送  
りました。

# NEWS &

10/10 第2回角間キャンパス屋外緑化2008を実施

10/10 附属中学校60周年記念式典を開催



10/9 韓国全北国立大学医学部長が学長を表敬訪問

## October 10月

9/28 県民公開セミナー「ご存知ですか？最新の肺がん治療」肺がんをもっと知ろう」を開催

9/26 9月期学位記授与式  
学部生16名、大学院研究科修了生と博士論文審査合格者56名、合計72名に学位記が授与されました。

10/11 北陸三県大学学生交歓芸術祭を開催

11/2 アメリカンフットボール部が北陸学生アメリカンフットボール秋季リーグで15連覇

## November 11月

10/25 吹奏楽団が全日本吹奏楽コンクールで銅賞



10/15 資料館・附属図書館特別展を  
「うけつがれた『モノ』たち―明治・大正・昭和の掛図・模型―」と題し、掛図をはじめ、絵図や標本など貴重な歴史的教材を特別公開・展示しました。

10/15~11/14 資料館・附属図書館特別展を開催

北陸三県の文化系サークルが集う、年に一度の芸術の祭典が行われました。

10/11~11/23 北陸三県大学学生交歓芸術祭を開催



11/1~3 第45回金大祭「星火燎原」



11/1 第2回金沢大学ホームカミングデー  
多数の卒業生が、久しぶりの母校を訪れました。



11/1~2 医学展「みかたく好きで好きでたまらない」  
2006年に復活後、2年ぶり2回目の開催。



11/1 ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー

お気軽にご参加ください  
EVENT  
CALENDAR  
イベントカレンダー

★マークはサークルのイベント ( )は開催場所です。  
\*マークは金沢大学サテライト・プラザで開催します。  
特に明記がないものは、金沢大学角間キャンパスで開催します。

2008

12月  
December

- 6 → 琴尺八部 邦楽演奏会(石川県教会館)★
- 6,13,14,20 → 児童文化部 クリスマス公演★
- 7 → 人文学類発足記念シンポジウム「フィールド・スタディーズの現在」\*
- 8 → 第1回金沢大学女性研究者支援シンポジウム—大学のやる気と地域連携—(ホテル日航金沢)
- 13 → モダンジャズソサエティ定期演奏会(ラプロ片町7階アートシアターいしかわ)★
- 13 → ミニ講演「中国の初期稲作遺跡を掘る—浙江省田螺山遺跡の日中共同調査—」\*
- 13~14 → 「いしかわ金沢学」冬コース
- 13,20 → 児童くらぶひこうせん クリスマス公演★
- 20 → 竹糸会[邦楽] 定期演奏会(石川県教会館)★
- 20 → 金沢大学タウン・ミーティング(内灘町)
- 21 → 第4回サンデーセミナー~見て知って金沢大学~「イタリアの Fresco 壁画修復」(金沢大学東京事務所)
- 21 → ミニ講演「2008ノーベル物理学賞:破れた対称性」\*
- 23 → 吹奏楽団 第21回定期演奏会(金沢歌劇座)★
- 27 → 軽音部Y.F.A「お城のコンサート08」(金沢AZホール)★

2009

1月  
January

- 10 → ミニ講演「蛍光タンパク質について」\*
- 17 → フィルハーモニー管弦楽団 第69回定期演奏会(金沢歌劇座)★
- 17~18 → 大学入試センター試験
- 24 → ミニ講演「子ども虐待の早期発見と子育て支援の重要性」\*
- 31 → 公開講座「百万石の城下町—江戸時代の寺町と寺院の形成—」\*
- 31 → 合唱団 定期演奏会(金沢市文化ホール)★

2月  
February

- 7 → 宝生会 能楽発表会(石川県立能楽堂)★
- 14~3/14 → 公開講座「小説でふり返る教育の歩み」\*
- 19 → 金沢がん生物国際シンポジウム(医学部記念館)
- 21 → ミニ講演「『ワーキングプアの時代』の転換を求めて」\*
- 25~26 → 入学試験—前期日程
- 27~3/5 → 美術部 卒業展覧会(金沢市民芸術村)★

3月  
March

- 4 → 金沢大学シンポジウム—日本の未来を担う人材養成・教育改革モデルの構築—(仮)(東京学術総合センター)
- 6 → 附属高等学校卒業式
- 7 → 合格発表—前期日程
- 7 → ミニ講演「富山湾を襲った“寄り回り波”による高波災害の報告と対策—波浪災害と地球環境問題への対応—」\*
- 7,8 → 書道部 学外書展(ラプロ片町7階アートシアターいしかわ)★
- 9 → 附属特別支援学校卒業式
- 10 → 附属幼稚園卒園式
- 11 → 附属小学校卒業式
- 12 → 入学試験—後期日程
- 13 → 附属中学校卒業式
- 22 → 合格発表—後期日程
- 23 → 学位記・修了証書授与式(第1部 大学院,第2部 学部・別科・専攻科:金沢歌劇座)
- 7 → 入学宣誓式(学域:金沢歌劇座,大学院:十全講堂)

4月  
April



携帯サイトはこちら!  
<http://daigaku.jc.jp/kanazawa-u/>

フューチャーズ・フォー・ザ・フューチャー  
Features for the Future

入場無料 | どなたでも参加できます

第1回金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム

金沢大学の優れた研究を地域の皆さんにご紹介します。



人間社会研究域 2/7(土)  
13:00-17:00

「交響する文化学—異文化接触と新文化創出のために—」

場所: 赤羽ホール

理工研究域 1/31(土)  
13:00-17:00

「地球温暖化問題を含めた俯瞰的な環境問題へのアプローチ」

場所: 石川県立音楽堂 邦楽ホール

医薬保健研究域 1/24(土)  
13:20-18:30

「病気を予防するための食と運動と環境」

場所: 石川県立音楽堂 邦楽ホール

金沢大学の最新情報は金沢大学ホームページからご覧いただけます。 <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>



【Acanthus 1766】  
古代ギリシア・ローマに由来する植物で、和名を葉薊(ハアザミ)という。金沢大学校章のモチーフになっていることから、キャンパス内施設に名称が用いられるなど、長年にわたり学生や教職員に親しまれている。

【表紙写真】  
自然科学5号館横の大屋根  
雨や雪を防ぐ本来の機能はもちろん、その下にキャンパス内の交流を生む広場としての機能を併せ持つ大屋根。それを支えるのは冬の兼六園の雪吊りをイメージした建造物です。モデルは本誌P6・7に登場する知的財産法ゼミの皆さん。

【編集後記】  
今号のテーマは、研究を地域・社会に還元する「産学官連携」です。大学の教育研究活動が、社会のニーズとつながり、食生活や医療など生活の一部となる。それらの事例をおとして、本学の産学官連携をより身近に感じていただけたらと思います。  
また、産業界と大学が一体となり、国際交流と人材育成をめざす「アジア人財育成プロジェクト」など、金沢大学の国際的な取り組みを紹介します。